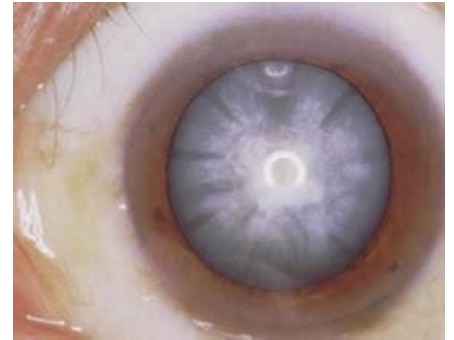


# 「星を見るための白内障手術」

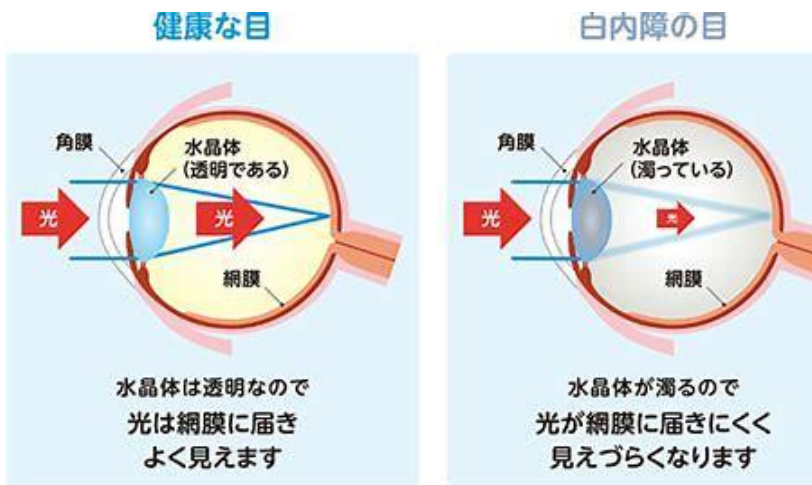
桑田直宏

昨年に延期した白内障手術を 4 月に受けることになった。2 月に病院で目の定期健診をしたところ、裸眼で両目とも 1.5 だった。これだけ見えるのなら別に手術する必要はないのではと思われるかもしれない。実際、普通に生活していて不便を感じることはない。しかし、40 cm 望遠鏡でも微かにしか見えない系外銀河を観測すると、10 年前とは明らかに見えなくなっているのがわかる。長い時間をかけて目を暗闇に慣れさせると、視野全体が白っぽくなり、あちこちにもやもやした白い塊が見えている。まるでいつも M33 中心部を強拡大して試しているような感じになって全然楽しくないのである。

白内障は目の水晶体が加齢や紫外線の影響で白く濁っていく病気である。50 歳台で 50%、60 歳台になると 60% の人が白内障になっているといわれている。何十年もかかって徐々に見えなくなるので、気にならない人もいるようだが、天体観測が趣味の人間にとっては大きな問題になる。



気になっているのは、人工レンズに入れ替えると本当に星がよく見えるようになるのかということである。私の周りにはすでに白内障手術を受けた人はたくさんいて、「黄色いと思っていた壁が本当は白いうことが分かった。」「嫁さんの顔にしわがいっぱい見えてびっくりした。」「もっと早く手術しておけばよかった。」など、概ね手術をしてよかったという意見が多い。



担当医との話し合いでは、「私の趣味が天体観測であること」「今と同じ 1.5 の視力を維持すること」「できるだけ透明なレンズを希望」と伝えてある。先生曰く、私の希望に合うのは多焦点レンズではなく単焦点レンズがよいとのこと。多焦点レンズにすると、レンズの重なっているところに

星の光が入るとグレアやハローが起きることがあるので、星を望遠鏡で観測するなら単焦点をお勧めするといわれている。

単焦点レンズにした場合、遠くに焦点が合うようにするか、中間か、近くに合わせるかの一択になる。遠くが普段からよく見える人は人工レンズも遠くに合わせる方が違和感がないとのこと。その代わり、近くを見るときはメガネが必要になる。一度もメガネをかけたことのない私には少し不便になるが、本当にこれで淡い星雲が若い時のようによく見えるようになるならば、全然問題とは思わない。

ネットで情報を集めても、白内障手術をして星がよく見えるようになったという書き込みがあまりないので不安もある。私が自分で確かめるしかないと思っている。